

「霧島発 地域の絆」情報交換会

《目的》

この情報交換会が、将来的に「定期的な情報共有及び連携強化の場」にできるよう、圏域ごとに地域のリーダー同士の顔の見える関係づくりを行うとともに、お互いの取組の情報共有及び地域活動の活性化を図る。

《開催日程》

- ・国分北圏域：1月23日（水）9：30～11：30 国分総合福祉センター 大会議室
- ・国分圏域：2月19日（火）9：30～11：30 国分総合福祉センター 大会議室
- ・国分南圏域：1月18日（金）9：30～11：30 国分総合福祉センター 大会議室
- ・溝辺圏域：2月26日（火）9：30～11：30 溝辺ふれあい温泉センター
- ・横川圏域：2月12日（火）9：30～11：30 横川健康温泉センター
- ・牧園圏域：2月15日（金）9：30～11：30 牧園農村活性化センター
- ・霧島圏域：1月25日（金）9：30～11：30 霧島保健福祉センター
- ・隼人北圏域：1月30日（水）9：30～11：30 姫城公民館
- ・隼人南圏域：1月22日（火）9：30～11：30 隼人公民館
- ・福山圏域：1月29日（火）9：30～11：30 牧之原老人憩の家

国分北圏域 会場の様子



国分北圏域（議事録）

《 1 G 》

- ・高齢化が進み、新しい人が入ってきている。
- ・親がしりぞき、子供が加入している。親子で1つの有線を聞いているところもある。
- ・役員をしたくないとの理由で、子ども会をやめる人もいる。
- ・自治会加入率が下がっている理由がわかると良い。
- ・世話人を複数立てて、ひろば・サロンに誘うようにしている。
- ・お茶の準備、茶碗洗いが大変。もらって食べるのが負担になる人もいるという声があった。
- ・若い人に歩みをよせていくと良いかもしれない。
- ・現役の人達は時間が無い。高齢になると時間はあるが、力や能力が衰えてきている。
- ・年末に子どもたちとそば作りを習う。消防団と一緒に往うため、火災予防の巡回にもまわる。
- ・年齢ごとの知恵があるので、知的財産をみんなに教えるとよい。
- ・子どもは県外なので、「ピンピンコロリ」しないといけなう。子どもには仕事が無いので、帰ってこいとは言えない。
- ・少子化を無くすには婚活が必要である。
- ・地域で婚活をする必要もあるかもしれない。
- ・子ども会のラジオ体操も無くなったので、自治会も協力したらどうか。
- ・てご川で夏休みはうなぎ獲り・泊まりをする。
- ・地域で子どもを育てるのが大事。
- ・昔は自治会に入らなうと、村八分になっていたが、今はそれでもいい人がいる。

《 2 G 》

- ・私の地区では、子どもも参加して月1回ひろばを往っている。子ども達も交流があることとで、道端で会った時にも挨拶をしてくれるようになった。
- ・自治会長が大変だから、自治会から離れているようにしている。
- ・私の自治会は新しくできた自治会なので、古くからの人がいない。
- ・自治会長の中には「何も起きなうように」ということなかれ主義の方もおり、そう言われると何もできないこともある。
- ・国分北の旗振りで交流しているのみで、子どもと接することがない。
- ・昔のかたぎのような方が多い。（民生委員にすぐに言わなうと、というような人が少ない）
- ・「来て話をしてくれたら嬉しい」と訪問時に言ってもらえと嬉しい。
- ・公民館が昨年新しくなうた。せっかくだから生かしたいと考え、淋しい高齢者のお茶のみ場をつくた。6名来てくれた。
- ・地域住民に食改の方がいて講師をしてもらた。
- ・来てくれる人、一人一人にチラシを配って周知している。

- ・ずっと来てくれない人にも毎回声をかけている。12月にやっと来てくれた人がいた。
 - 「何度も誘ってくれたから」と言ってくれた。
 - ・お茶菓子代はいらない。みんなが手作りで持ってくるから。
 - ・組織をつくるにはどうしたらよいか？
- 組織をつくるのは大変。近くにある福祉施設を巻き込むと良いと思う。施設の方も求めていると言っていたので、声をあげたら良いと思う。

《3G》

- ・高齢者の見守りは、施設や病院にいたり、引きこもりの方もいたり中々できない。
- ・児童クラブがある。食事会を通して、子どももおじいちゃんから話を聞ける。おじいちゃんたちを迎えに行くのも、子どもたちが行い、手をつないで、食堂に連れて行く。
- ・母子家庭で、昼の仕事なら良いが、夜の仕事だと、親が夜いないので、子どもが夜出ていく。朝の仕事だと、朝親がいないので、学校に行かず、不登校になる。
- ・転勤で家を建てたり、団地とのつながりが薄かったりで近所付き合いが難しい。
- ・地域の行事を小規模にしてほしいとの住民の声がある。
- ・災害時に隣近所と連携できるように、自治体での交流が必要。
- ・伝統行事が2年前から無くなった。
- ・災害や子どもたちを守るのが自治会。体制づくりが自治会の仕事である。

《4G》

- ・地域のひろばを立ち上げ、大変だったが、困ったときに助けてくれる地域住民がいた。
- ・昔は地域のことわかり、周囲がしかったりしていたが、今は人がわからない。
- ・老人クラブでカラオケをしていて、認知の心配な方を呼んで行っている。
- ・地域みんなで集える行事・取組をしている。(鬼火たき)
- ・年に1度、地域住民みんなで、清掃活動をしている。どこのだれかわかる機会づくりに。
- ・自治会に入っていない人のクラブもできてきた。
- ・昔に比べるとサロンが減った。集いの場が必要。
- ・集いの場をつくったが、個性がいろいろあり。リーダーへの負担が大きく、みんなで決めることに変えた。
- ・福祉施設で集まりをしている。おのずと交流、顔の見える関係づくりができてよい。
- ・男女で助け合いながらやっているのが地域の良いところ。
- ・地域の絆が深まり、お互いに助け合える関係性ができ、地域のこれからについて考えられるようになった。

《5G》

- ・一人暮らしの方・男性の方にも食事を持っていったりしている。
 - ・民生委員の訪問の際に、私の地区ではすでに隣近所の方が見守りをしてくださる状況になっている。
 - ・地域のひろばでは、最近音楽も取り入れるようになった。楽しく行えば、「絆」が出てくる。
 - ・最近の子ども達から鹿児島弁が薄れてきているのがさびしい。学校等で教えてもらえたら。
 - ・ある会では、花壇の植え替えや草払い、バザー等も行っている。
 - ・ある会では、月1回体操、ゲーム、頭の体操をしている。
 - ・私の地区では、8・12月に川のそうじ（親子）、通学路のそうじ（学校と）、花を植えたりしている。
 - ・温泉が近くにあり、そこで情報共有をしている。
 - ・高齢化で田んぼを作らなくなった。
 - ・昔は葬式等で力を借りたり、つながりができていた。
 - ・昔は縁側などで話をしたりがあった。お茶等もでき、コミュニケーションが取れていた。
- 家の造りも昔と違い、閉鎖的になっている。
- ・共助の必要性の理解が必要。
 - ・子どもたちの遊び方も変わった。今はゲーム等、昔は外でみんなで遊んでおり、そこで地域の情報をつかむことができていた。
 - ・「子どもが宝」。今後の地域のために地域で見守っている。

《6G》

- ・国分地区にも限界集落がある。私の地区は人口が少ない。
- ・特認小学校を守りたい。
- ・人が少ないからこそその団結力を活かし、自分たちで何かしなければいけない。
- ・私の地区ではこれからサロンが行えるように、空き家利用を計画。リフォーム中。転入した頃に良くしてもらったから地域の方に恩返しがしたくて、空き家を購入した。高齢者の活躍の場になってほしいと思う。
- ・私の地区では、お茶のみから始まり、ひろばに転換。形にはまらずに取り組むことも大切なので、年3回は外で活動。企画は男性にお願いしている。
- ・野菜、料理等、高齢者が活躍できるように、全てを作り上げる必要はない。みんなで考え、自主性を育み、無理はしない。自分が楽しむのが、長続きの秘訣。
- ・救急救命の講座を受講し、実際に地域で人工呼吸をする機会が発生し、対応ができた。

《 7 G 》

- ・地域のひろば、65 歳くらいの若手が計画。呑みながら話す。
- ・若い人からの意見を聞いて運営に反映している。
- ・自治会の役員は、順番制でなく、受けてもらえる方をお願いする。
- ・民生委員を辞めた人が、現役をサポートし、一緒にまわっている。
- ・空き家や協力者をつかまえる。人と話すことが大事。
- ・地区のことをほとんど知らない。回覧板を歩いて回り、地域を知る。
- ・話の内容が具体的にわからない時があるが、補ってくれる人がある。
- ・男性ならではの地域のつくり方がある。
- ・何でも聞いてみるのが大切。誰かがいい知恵を持っている。

国分圏域 会場の様子



国分圏域（議事録）

《1G》

- ・民生委員として独居高齢者の見守り、安否確認を行っている。特に男性独居は重点的に。
- ・閉じこもり傾向にある方の見守りは、自治会長と情報共有し、電気がついていないかの確認など散歩のときに行う等近くにいるからこそできる方法を行うようにしている。
- ・施設入所等による空き家が増加中。
- ・地域の福祉施設と連携し、ボランティア活動や地域のひろば等の取り組みをしている。
- ・土曜開催などの工夫はしているが、40～50 歳代の若い世代が出て来ず、毎回同じ顔ぶれというのが悩みの一つ。
- ・「集まって元気になる」をテーマに地域のひろばを立ち上げ、広報誌を月1回発行し情報発信している。
- ・地域全体を巻き込んでいくことで地域住民みんなが「自分のこと」になっている。
- ・まずは、住民の顔を覚えることから。
- ・地域活動は、補助金などの制度も上手に使うことが大事。
- ・顔の見える関係づくりや地域活動を継続させていくためには、男女別のボランティアの会や育児サロン、学童、老人クラブ等を巻き込んでひとつの地域活動にしている。
- ・現在の活動を次の世代につないでいくために、子育て世代の行事を行ったり、50 歳代の方々の役割を考えたりしている。

《2G》

- ・民生委員として一番力を入れている活動は、老人会に入りたくない方への訪問活動。
- ・民生委員の活動として校門に立って挨拶活動をし、顔を知ってもらうようにしている。
- ・老人クラブの活動後に、30分～1時間程度体操、脳トレ、お茶飲みなどを行っている。なかなか会えない方同士が触れ合える良い機会になっている。
- ・農作業をしている方の所に行き、他の方々も誘い合ってお茶飲みをしている地域もある。
- ・危ない箇所があるので、児童の登下校時にスクールガードをしている。その人たちが集まって子供たちと顔合わせ。現在は、灯籠作りや夏祭り、十五夜祭などを行い、子供たちとも顔の見える関係づくりができるよう取り組んでいる。
- ・火災予防週間に、消防車に子供たちを乗せて火災予防を促した。
- ・地域サロン活動については、大人から子供まで行える体操やお茶を飲んで和む会など幅広い活動に心掛けている。
- ・でも、集まりが悪かったり、毎回同じメンバーで集まったりなどの悩みがある。
- ・なかなか参加者が増えないが、まずは自分たちが楽しめることを行っている。
- ・近くに公民館や集会所等集まる場所がない地区もある。
- ・他のサロンを見ることがたいへん参考になる。
- ・うちも参加者が増えないことが悩みだが（運営側として参加している人が半分）、交わる

機会が増え、参加者同士で気遣いあう姿も見られるようになってきた。

- ・サロンを立ち上げ2年になるが、自治会長の負担にならないよう（自治会長の任期2年）1年目は民生委員や運推等が中心（自治会長には覚えてもらう期間）で行い、2年目は自治会長にも活躍してもらうようにしている。
- ・自治会役員を中心にサロン運営を行うと負担が大きくなってしまったため、会計などの運営は役員以外が行うようにしている。
- ・回覧板でサロンの広報誌を回す。
- ・土曜日にサロンを行っていたが、参加できない方もいるので、日曜日に行うこともある（参加者20名前後）。しかし、若い方の参加があまりない。
- ・サロンでお菓子作りをするのは好きだが、一人の方にあれもこれもと負担が大きくなってしまい、イベントや行事が大変になってきている。
- ・進行役をやっていた人が進行するのが当たり前になってしまっている。「誰かがしてくれる」と思っている人がいる。
- ・現状を自治会長にもお伝えし、役員だけで運営するのではなく、住民一人ひとりが楽しめるようにしていきたい。
- ・うちは、最初に「みんなで楽しめる会にしましょう」と伝えた。
- ・その日の担当者が急に来れなくなり、どうしようかと思っていたが、参加者一人ひとりが助け合いの精神で何とか乗り切ることができた。
- ・毎年、役員が入れ替わるので長続きしないのが現状。
- ・サロンのメンバーと子供たちで夏休みなどにラジオ体操等行うように考えていたが、今の時代は難しい。
- ・うちの公民館は調理設備がないので、ホットプレートを持ち込んで料理をしてみたら、結構好評だった。
- ・ある人が骨折した際に、地域の方々が家の見回りをしたり食べ物を差し入れたり掃除に行ったりしてくれるようになった。そんな活動ができるグループを増やし広めていきたい。
- ・老人クラブがお茶入れの担当をしていることもあり、住民全体の参加が少ない。

《3G》

- ・月に1回体操やお菓子作りをしている。約20名参加。集まると会話が弾むから楽しい。
- ・映画の機材を借りて公民館で映画鑑賞をしている。
- ・独居高齢者をどうやったらサロンに連れだせるか？もし車で迎えに行くとしても事故等が心配。
- ・タクシーを使うとしても、自治会にお金がないし、「なぜあの人だけタクシー代を出すのか？」という声も挙がる。
- ・4〜5人でランチをしながらイベント等を企画し、毎月のイベント・行事（卓球、ストレッチ等）を回覧板で回している。

- ・たくさんの方に参加してもらいたいけど「体調がよくない」等話される。また、自治会に加入しない方も多い。
- ・ゴミ収集所まで距離がありゴミ出しに困っている。シルバーの方に声をかけたり近所の方の協力をもらわなくてはならない。
- ・ゴミ代は払うが自治会には入ってくれない方が多い。
- ・うちの自治会では地域のひろばを申請し、1週間に1回ラジオ体操とソフトボールをしている。若い人にも声をかけるがなかなか参加には至らない。
- ・公民館にて無料で映画鑑賞を行っている。
- ・60歳代の若い方や男性の参加が少ない。
- ・みんなが楽しめるようなイベントを考え、なるべく多くの方に参加してもらえるようにしていきたい。
- ・子どもが減ってきており、子供の行事も減ってきている。子ども会への参加も少ない。
- ・2ヶ月に1回サロンを行っていたが、現在は月1回するようになった。会費は1000円。花見や新年会、過去は料理教室もしていたが、現在は体操と簡単なゲームを中心に行っている。
- ・毎月15日に神社の掃除後に体操をしている。8名参加。みんな話をするのが好き。
- ・在宅福祉アドバイザーさんたちが中心になっている。

《4G》

- ・昔から神社を中心にした行事やイベントが多い。園芸や伝統継承等様々な会がある。子ども会の行事も多く、敬老会では運動会も行っている。自治会を盛り上げようと働きかけてくれる住民も多い。行政からの補助で行事の衣装や太鼓等も調達できた。
- ・たくさん地域行事があり、自治会を出る人、入ってくる人さまざま（行事が多いことに反対する人もいて、校区外に転出される人もいる）だが、新居も増えており人口が減ることがない。
- ・今年度、県の事業の自主防災ネットワーク事業のモデル地区となり、約半年の間、月1〜2回住民が集まり（55〜57名参加）、みんなで地区内を歩いて危険な場所や避難場所等の確認を行ったり、要援護者のいる家をマップに落としたり、自主防災計画を作成したりした。
- ・今の自治会には嫁に来た時から加入しており住民の顔は大体わかるが、60歳代より上の世代が多い。自治会の役員決めでは、働いている人や独居者は断ることが多い。自治会費を払うのが精いっぱいという人もいる。
- ・年に2回公民館掃除をするが出てくる人も限られており、隣近所の人が顔を合わせる機会がほとんどない。
- ・いろいろ地域活動をやりたいと思うが、自分より高齢な方々は外に出たがらなくなっているし、金銭的な問題（自治会費は払うがその他は出したくないとの声もある）も大きく

動くことができない。

- ・自治会でのグラウンドゴルフがなくなった。やりたい人は各自チームに入っている。
- ・地域内の関係性がなかなかできないので、地域のひろばとか活用できればとも思うが、一人で空回りしてしまう。2 年間いろいろやってきたけど、次回は別の人にやってもらおう！お茶飲みだけでもいいから、地域で何かできないかな。
- ・老人会が活発で週 1 回集まっている。
- ・田んぼゴルフが恒例行事だったが、危険ということで今年は餅つきに変更となった。
- ・なにかやるにしても、人集めがたいへん。参加する人が決まっている。
- ・昔は一つの自治会だったが、新参加者と相いれない状況となり、自治会が分断された。今は高齢者が多くなり維持できなくなってきてしまっている。
- ・「もしも」のときに、どこに手助けが必要な人が住んでいるかなどわからないと助けようと思ってもどうすることもできない。個人情報保護というけれど、ある程度は緩くしてもらわないと隣近所の助け合いはできない。
- ・外国人が住んでいるが生活習慣が我々とは全く異なることがある。
- ・よその地域はよさそうに見えるけど、こうして話を聞いてみるとやっぱりどこもたいへんなことがわかる。
- ・子どもを持つ親のストレス発散できる環境がつくれたら、虐待も防げるのではないか。
- ・住民それぞれ、十人十色。
- ・今は生活が良くなりすぎたのか？昔はもっと自由だった。

《 5 G 》

- ・農業をしており、子ども食堂に食材を提供している。
- ・週 1 回サロンを開催。曜日の感覚がなくなってきたのでちょうど良い。始めて 5 年くらいたつ。元先生をしていた男性が中心に行っている。12~13 人参加。内容は体操の他、出前講座やエルグからの講師等呼んでいる。介護食の講座のときに、地域で介護している人もいたので自分でも作れる家庭的な調理を教えてほしかったが、市販のレトルトを持ってこられた。こういった講座は、こちらが聞きたいこととずれることがよくある。しかし、いろいろな取組をしていくには地域の力だけではむずかしいので、補助金や講師派遣等行政の力も借りないと成り立ちにくい。
- ・防犯パトロールをしている中で 2~3 人の茶飲みを始めた。年寄りが行くところがないので月 1 回サロンを開催することとなり 2 年が経つ。体操や健康講話、お茶飲みを行っているが、地域の花屋さんと協力して花植えをしたところ大盛況だった。また、門松作りなどでは、材料を持っている人が自主的に持ってきてくれたり、作るのが得意な方が協力してくれたりする。参加者は 20 名くらいで男性も数名出てくる。どの世代も楽しめるよう 8 月はマジックもやったが、若い人や子供の参加にはつながらなかった。市の補助金では茶菓子代が足りないこともあるが、お菓子や漬物を作ってもってきてくれたり、自治会費

から寄付（月 500 円）をいただいたりしており、茶飲みが楽しみの一つになっている。最初はこまめに声掛けをして広めていったが、現在は回覧板で広報している。

- ・健康生きがいがづくりで月 1 回公民館で活動している。前の方から引き継いで 10 年以上たつ。毎回放送で呼びかけ参加者は約 30 名、男性も数名来られる。内容は体操や出前講座が中心。お茶はペットボトルを配り、何か月かに 1 回お菓子を準備し茶話会をしている。11 月はマイクロバス研修旅行を行った（自己負担 1,500 円、運転手自前）が、老人クラブのバス旅行と時期がかぶってしまった（健康生きがいがづくりと老人クラブはほぼメンバーが一緒）。12 月はそば打ちをした。今回は講師を頼まず自分たちでやろうと道具を借りに行ったり買い出しをしたりしたが、役割を持つことでみんないきいきしている。また、85 歳以上の高齢者に配って回った。
- ・地区の運動会を行っており子供から高齢者まで参加しているが、午前中で終わりにしようとの意見もあり頭を抱えている。みんなが楽しめるプログラムを考えるのがたいへん。
- ・ウォーキング会を行った際は、歩くのが厳しい方々は公民館に残り体操や茶飲みを行うようにしたところ、来年もやりたいとの声をいただいた。
- ・うちの公民館は自治会加入率が一番低い。自治会加入率はどこも年々下がっている。新規で加入する人が少ない。ゴミ出し費みたいながあるので、自治会に入っていない人も多い。
- ・サロン活動では、ビデオを借りて懐かしの映画を見ることがある。西郷さんの資料ビデオも見た。

国分南圏域 会場の様子



国分南圏域（議事録）

【グループワーク議事録】

《1G》

- ・地元出身で、顔見知りばかり。その日の行動を話したりする。あまり身近になりすぎて、ここまで対応してよいか心配。
- ・子育てサロンをしているが、子供が少ない。
- ・地域高齢化が進んでいる。公民館長や、民生委員に話をする。話ができない方には手紙を入れている。
- ・地域の若年性認知症の方が、話をしに来てほしいと言われるが、外出すると他の家に入ろうとしたり大変。
- ・地元なので、ほとんど顔見知り。少人数なので、地域で声掛けをしている。1人暮らしの高齢の方は、デイサービスの時に見送りしたりする。
- ・個人の持ち寄りで、地域のひろばで、食事会をする。（月2回）
- ・子どもが同居の家庭でも、顔を見に廻る。交通安全指導もしている。（81歳の方も参加）
- ・全員を廻るようにしていると、いろんな情報を教えてくれる。
- ・特認校の小学校があり、地域の活性化につながっている。
- ・館長をしている。先輩に教わっているが、自分で理解して、行動している。地域の役員も、最近若い人が多い。（転入者）
- ・自分たちは口伝え、若い人はSNSを使用。つながりのスピードが違う。
- ・敬老会は踊りが主体だが、中学校の吹奏楽などを取り入れたい。
- ・館長8年目。団体が協同イベントを行う（鬼火たき・グランドゴルフ・そうめん流し・敬老祭）
- ・後継者がいない。
- ・地区合同で運動会をしている。1/26開催。毎年50～60名集まる。
- ・特認校生を増やす取組（ソバ植え付け等）
- ・イベント開催すると、受け入れ体制の協議が必要（車・イス・トイレ・・・）
- ・各地区のサロンに参加して地区の状況を見てみたい。受入があったらいいな。
- ・区域が広い為、人口も多い。敬老祭も逆に集まりが悪い。
- ・近所に救急車が来たが、通りから誰も顔を出さない。以前は、皆出てきてた。
- ・ごったんを弾ける方がボランティアで演奏している。利用してほしい。

《2G》

- ・新しい方が自治会へ入らない。
- ・一人暮らしの高齢者が多く、集まる場所を作してほしい。
- ・月1回、軽い体操等をはじめている。14名～15名集まり、運動推進員で実施している。

公民館・老人クラブの方が来られて、手伝いをされる。係りは老人クラブで、お菓子等を持って来られる。(ひろば費用足りない)

- ・リーダーさん書類が大変です。→社協さんで対応してくださる。
- ・ある地区で集まり、4～5名のサロンがある。民生委員が入ってサロン（ひろば）をスタートできないか？
- ・公民館に集まってひろばができれば、みんなが集まる。
- ・個人宅が、離れていて会えない方が多い。集まることが難しい。
- ・小学生が少なくなっている。全員で9名。うち、地区の小学生は2名。

《3G》

- ・会長1年目。周りの先輩に聞いて、手探り状態で行っています。
- ・自治会加入率はいなかの方が高い。子ども会にも今は入らなくても良い時代。
- ・親が人生のルールを教えてくれた。今は、ルールを教えてくれる人がいない。話を聞きいれてくれない世代が増えたように感じる。
- ・狭い団体なのに、個人の意識を変えるのは難しい。
- ・自治会の運営難しい。大変だけど協力し合いながら頑張っている。3名で助け合っている。
- ・後継者がおらず、6年も続けて会長をしている。これからのことを考えて、話し合いをしようとするが、なかなか・・・。
- ・私の地区は空き家が多い。子育て高齢者が多い。車が無いと不便。安否確認・見守りを多く行っている。
- ・物を作って、ひろばで楽しんでもらっている。弁当をお店に出している。
- ・生まれ育った地域を活性化したいと努力している。
- ・でしゃばるとたたかれる。背中を押してくれる人がほしい。
- ・定年までは働かないといけなく、参加・協力が難しい時がある。
- ・皆に声をかけて、後継者作りが大事。
- ・親が亡くなると、子供たちは、東京・名古屋の方へ。50～60代の方は、仕事で日曜日しかいない。
- ・地域おこしをしたいが、できない。次の世代がいない。若い人の負担になる。
- ・地域の活性化は難しいが、地元に住みたいと思える地域づくりをしている。

《4G》

- ・公民館で10年程、運推として活動している。子どもの学校関係で、地域のつながりができた。人とのつながりを大切にしていきたい。人の為に、自分も楽しく。
- ・あるボランティア団体の会長。地域の盛り上がりが欠けていたことから、神社の清掃活動を始めた。人とのつながりを大事にしたいと、民生委員の仕事を行ってきた。
- ・公民館ではなく、自治会で取り組みをしている。公民館でも以前はやってしたが、参加者

が集まらず、難しかった。事業への理解・人集めが難しかった。

- ・独居の訪問を行い、サービスが必要そうなら、包括支援センターに連絡をしている。(民生委員)

- ・私の公民館は、年間計画を立て、サロンがうまくいっている。館長・役員・民生委員・在アドの連携がうまく取れている。在アドが協力的。

- ・加入率が低く、よそから入ってきた人、特に若い人が多いので、つながりが希薄。なんとか参加者を増やしたいが、なかなか増えていない。皆で考えている。地域の絆をもっと深めていきたい。

- ・地域のひろば2年目。毎回来れない方も、去年のひろばが良かったから、と来る人が多い。

- ・大人と子供のふれあい事業には、子供が来ないのが課題。

- ・良い取り組みをしているところは、昔から良い雰囲気を作っているのではないかと思う。

- ・地域のひろば、役員3名、在アド、民生委員で年間計画作成。毎月一人100円、25名〜30名参加。

- ・65歳以上100円、65歳未満200円で世間話ができる場。

- ・後継者を見つけるのが大変。やれば、次の人が「こんなに大変なのか」と言うし、やらないと、「地域のためにならない」と言われ……。公民館長は他にもやる事がたくさんあり、忙しい。後継者づくりが大切だと思っている。

- ・忙しい人をお願いするとすぐに動いてくれる。暇な人をお願いすると、また明日でいいや、となり、動きが良くない。

- ・お金が無いのでできないことが多い。高齢者は皆でどこかに行きたいと思っており、バスの借上げの要望がある。自分たちで出し合う工夫も必要。

溝辺圏域 会場の様子



溝辺圏域議事録

《1G》

- ・民生委員を引き受けて6年目。70歳以上の独居・夫婦世帯の緊急連絡先を把握している。
- ・自主サロンを12名程度で行っている。若い人にもっと参加してもらいたい。若い人が来て下さったが、「居場所が無い」と来なくなった。
- ・若い人は働いているので、サロンにはなかなか来れない。
- ・集まりがどんどん無くなり、地域が希薄化している。
- ・民生委員として、月1回訪問し、感謝して下さることが喜び。
- ・老人会では、夏休みに子ども達と竹とんぼ、竹馬、風車等をつくっている。
- ・ボランティアで学童に行っている。
- ・老人クラブでは困っている人のところへ、草取りや枝を切り取りに行っている。
- ・民生委員便りを作成している。
- ・地域はなかなか動かない。まずは一人ずつ徐々に広めていくしかない。
- ・昔は近所の大人から怒られていた。今はどうか？
- ・他人が子どもたちを怒れなくなった。気軽に声かけができなくなった。
- ・お金の貸し借りはしないが、頼まれたら何でもする。
- ・調子が悪くても、サロンに行くと元気が出て、笑顔になれる。

《2G》

- ・物産館にて買い物弱者支援（移動販売）を行っている。1日30件まわっている。
- ・物によっては、店舗よりも移動販売の方が安くしているのもあったり、個人宅まで伺ったり、ニーズに応えるようにしている。
- ・買い物かごに自分で選んで入れる嬉しさを感じてほしいと思っている。
- ・横川もスーパーが閉店して、困っていると聞く。
- ・歌、菊作り、子どもとの交流を行っている。支援の有無ではなく、「続けたい」という気持ちで行っている。
- ・菊作り仙巖園での展示に向けて、若い人への伝達もしている。地域の方も「きれいだから」と見に来られる方もいらっしやった。その後の旅行などにもつながっている。
- ・2つの部落合同でサロンを行っており、月2回、16名くらい集まる。
- ・サロンへの参加は放送で呼びかける。電話して呼ぶこともある。
- ・「後片付けが苦になる」という意見や、手作りの差し入れを気にする方もいらっしやる。しかし、ボケ防止だと思えば、苦にならない。
- ・後継者の問題がある。

- ・近くのサロンや集まりには普段着で来れるメリットがある。
- ・老人会には939名いるが、なかなか入る人が少ない。
- ・老人会が増えるために魅力ある老人会にしたい。自分が入る最後の組織なので、今の時代、メンバーに合った形にして光輝く組織にしたい。

《3G》

- ・老人会活動が高齢化しており、人数が少なくなっている。
- ・若いお母さん方は婦人部の活動は難しいと思う。
- ・地域のひろばでグランドゴルフを月2回行っている。20名前後の参加がある。準備を一人で行っているのもう一人協力してくれる若い人がいたら助かる。
- ・移動販売を3年活動しており、溝辺の道路・家等の環境を知ることができた。移動販売の際に、「あなたたちが来てくれるから生活ができる」と声をかけていただけ。
- ・「あの人が来たら行かない」が原因のひとつで、悩みである。
- ・グランドゴルフを自治公主体となって開設して3〜4ヶ月になる。顔の見える関係づくりを目指している。
- ・皆さんの話を聞いて、地域のために何ができるか考えた。両親が自治会長をしているが、地域での集まりも少なく、地域を活性化させるという意識は少ないように感じる。コミュニケーションがうまくできていないと、「人間同士もうまくいかない」と祖母に教えてもらった。自分たちが地域活性化の先駆けになればと思う。(実習生)
- ・歳を重ねると、人間同士のぎくしゃくが増える。
- ・地域のひろばで、講師を呼んだりして、興味をもっていただく内容に心がけている。人の批判はせずに、楽しく過ごし、来なくても良い(無理せずに)と言っている。
- ・まずは集まりに参加してもらい、おおらかな気持ちで、コミュニケーションを取り、人とのつながりをつくってほしい。そして、家から出ることが、健康づくりにもつながると考えてもらえれば。
- ・高齢者の生活の変化を感じる。
- ・移動販売で沢山買い物をしていない方は遠慮されがちである。100円でも大丈夫だからと声をかけている。
- ・以前は軒下でお茶のみをしていたが、無くなっている。こうしたお茶のみの場が増えてほしいが、踏み込めず。
- ・溝辺分遣所に声掛けをして何かあったら、協力をいただけるようにしている。
- ・高齢者の孤独死が目立つ。宅急便の訪問で見つかる等、以前のようなつながりが無くなっている。
- ・一人暮らし高齢者の支援について、個人情報保護の問題がある。連絡先の把握をした後の仕組みづくりが必要と感じる。取りかかりをどうしたらよいか。包括との連携も必要。

- ・福祉には相談窓口がたくさんありすぎる。
- ・訪問時にトイレだったり、声が聞こえづらかったりする方がいるので、5分待つように心がけている。
- ・若い人とのコミュニケーション、つながりを薄く感じる。
- ・老人会がマンネリ化している。加入者も少なく、入りがたがらない。役をさせられる感がある。
- ・地域行事に若い人の参加が少ない。生活にゆとりを持った地域活動をどうしたら良いかが課題。40～50代の今後を担う方々の活動参加について、他の地域で手だてがあれば聞いてみたい。

横川圏域 会場の様子



横川圏域議事録

《1G》

- ・自治会で地域のひろばに取り組んでおり、健康体操、花見、花植え等を行っている。
- ・地域のひろばでヨガを行っている。牧園や溝辺からもいらっしゃる。
- ・サロン代表者が不在でも、進めてくれる方がいらっしゃる。
- ・大隅横川駅の清掃を盆前・正月前に行っている。
- ・地域のひろばで、他の地区の人も参加・交流できるようにしていきたい。
- ・地域のひろばをしたいが人数が集まらない。
- ・趣味の集まりだとやりやすいと思うのだが。
- ・サロンがあれば話し合いの場になり、スーパーが無くなっても、「私が行くが」となる。
- ・なりざわは20時までやっていたので、買い忘れの1品を近くに行けたのは便利だった。
- ・免許を返納した後に、なりざわが無くなってしまい、後悔した。
- ・1人暮らしの見守りで認知症かもしれないという人がいるが、電話が長く対応に困る。2人で訪問し、確認に行けるといい。
- ・人が集まるので、訪問しなくて済む地域もある。
- ・サロンが無くなったので、再び立ち上げたいと思うが、もう一人協力者でもいないと難しい。
- ・訪問に行った時、「お茶でも飲まれますか？」と声をかけてくださるのが嬉しい。
- ・サロンへの男性参加が多く、元気がある。他の地域は女性が多いと感じる。
- ・無くなったサロンはやらされ感があったり、仕事があり、それどころではなかったりした。
- ・若い人にも参加してもらいたい。
- ・「自彊術（じきょうじゅつ）」の先生がいるので、地域のひろば等で呼んでほしい。
- ・いろんな集まりに男性は参加しないが、グランドゴルフなら集まる。
- ・強く言う人がいると集まりにくい。
- ・グランドゴルフをしていると、参加者の確認ができて見守りになる。来てない人も電話で安否確認できる。

《2G》

- ・見守り・声かけを行っている。
- ・横川全域に地域のひろばが広がればよい。
- ・生きがいつくりやグランドゴルフの人集めは苦勞する。
- ・校区の運動会等は、マンネリ化・参加者数減・人集めが大変。
- ・活動の内容に迷う。
- ・ふれあい活動（ウォーキング等）、鬼火たき、敬老行事等を行っている。

- ・なりざわ閉店に伴う買い物弱者や空き家対策が必要になる。
- ・集会の広報に放送が使えるのがよい。
- ・自治会は入り込みやすいけど、範囲が広いと入り込みにくい。
- ・個人情報の壁がある。
- ・なりざわが閉店して、JA の移動販売が1 便増えた。
- ・自治会も高齢化や過疎化で運営が難しくなっている。若い人がおらず、役員のなり手がいない。
- ・山ケ野は5 集落あったが1 つに合併した。
- ・緊急通報装置等があるが、福祉制度の普及・広報が足りないのではないか。
- ・車の運転はいつまでもできない。健診を受けに行くのが大変なので、近場に廻ってきてくれたら助かる。
- ・空き家の改修を行い、起業してくれたら良い。

牧園圏域 会場の様子



牧園圏域議事録

《1G》

- ・ひろば事業でグランドゴルフを行っている。
- ・地域にひとり暮らし高齢者の方が12名おり、1ヶ月で訪問するのが困難。また、夫婦暮らしの高齢世帯までは訪問できない。
- ・地域で週2回グランドゴルフを行っている。
- ・ひろば事業で料理教室を行い、地域の得意な方が先生になって下さる。元気な方の参加が多く、会話が楽しい。
- ・高齢者が多い地域だったが、若い方が来られて子ども達も増えた。外国の方も住まれている。
- ・道路の草刈ボランティアを10名の方々とグループをつくっている。年4回各地域の美化活動を行い、部落会費の中から燃料代を出す。
- ・地域のひろばへ若い人の参加が少ない。若い人・子どもの参加ができるような工夫をしていきたい。
- ・自治会に入っていない方、脱退される方もいらっしゃる。消防費と収集費だけ頂くようにしている。

《2G》

- ・病気予防に対する食生活アドバイスを一緒に調理実習をしながら行っている。牧園町には14名食生活改善推進員がいる。小学校等で、親子料理づくりも行っている。
- ・夏祭り、運動会に力を入れている。
- ・若い世代がバンドをやっている。
- ・月2回、グランドゴルフに取り組んでいる。
- ・地域の集まりには、だいたい決まった人が集まってくる。参加したくないと思っている人もいる。
- ・スタッフとしての協力者がなかなか集まらない。
- ・空手道場で子供たちに空手を教えている。子ども達と関わることで、生徒の不登校やいじめ問題を知り、学校とも関わることもある。
- ・月2回、独居宅に訪問している。

《3G》

- ・ひろば事業を行っているが、決まった方のみが参加される。あの人がいるから行きたくないと言う方もいる。声かけをどこまでしていいのか悩む。
- ・自治会には入るが、小組合には入らない方がいる。
- ・みんなと会いたい、茶飲みしたいと思い、ひろば事業を始めた。

- ・サンドイッチだったり、作ったものをひろばに持って行く。
- ・伝統行事は働いている人が入ってもらわないと、続いていかない。
- ・地域活動で学童に参加し、子ども達に竹を使ってコップや皿づくりを教えた。
- ・「あなたに会いたいと言っている人がいるよ」「同級生がいるよ」と声をかけて参加を促している。
- ・お茶会には来るが、地区総会には来ないというところがあったり、逆の場合があったり、地区で異なる。
- ・出てきていただきたいと、話をするのがいい。
- ・来ることによっておしゃれをして気持ちも明るくなる。昔のことも話せたりする。
- ・婦人部をもっと増やしたい。
- ・ボランティアとして行くが、反対に自分が元気をもらう。
- ・地域と学校の交流の場として、小学1年生とさつまいも作りを行っている。

《4G》

- ・地域の方々が子どもを一緒に育ててくれている。
- ・正月も地域で集まる。
- ・15~16人でひろば事業に取り組んでいる。地域の人がヨガ講師をしてくれる。
- ・誰かが誰かを呼んできて、集まる。
- ・家にいると人に会うことが無い。顔が見えると、元気かどうか分かる。
- ・毎週土曜日グラウンドゴルフをしている。
- ・得意なことを発揮できる場にしていきたい。
- ・まとめ役が数人いてくれたら助かる。
- ・本来は、負担なく寄り添い合うことが必要。場所はどこでもいい。
- ・頼りにされることは生きがいになる。
- ・運動会の後、高齢者の方々を誘って、打ち上げをしている。
- ・公民館はエリアが広い。また、来れる人も高齢化している。
- ・家にまで行って誘うことに迷いがある。
- ・声をかけてもなかなか来てくれない人もいる。
- ・何でも民生委員がするものだ、と思われているような節がある。
- ・昔は地区でのお葬式があったが、今はそういうのは無くなってしまった。
- ・自主的に温泉で集いがある。お互い様にいろいろ持ち寄って集まっている。
- ・「役」を担っていない人にも発信していきたい。

《5G》

- ・ひろばやサロン活動は無いが、自主的に健康のため取り組んでいる。
- ・地域でのサロンを行った場合、外に連れ出してその人が本当に幸せなのか、疑問が残る。
- ・地域によっては外に出たがらない方が多いところもある。民生委員が無理に引っ張り出すことはできない。
- ・外に出るよりも、その方の家に行って会話するだけでも十分という方もいらっしゃる。そんなサービスや活動があってもいいのでは？と思う。
- ・個性や性格が違うので、まとめるのが大変。また、先輩には言いづらいことも。
- ・ひろば等、集まって活動がしたいが、交通手段がうまくいかない。なので、家に出向いて行ったり、散歩など小集団の活動をしている。
- ・目的があって集まる方はいいが、その方にはその方に合った生活があるので、誘いづらいところもある。
- ・70 歳以上の一人暮らしの方を集めての活動だけでなく、年齢制限を無くして、後継者を育てる意味でも、様々な方に集まってもらった方がいい。
- ・牧園は人数がそもそも少ないので、人数がたくさん集まることは少ないと思う。
- ・男性と女性では考えが違う。
- ・後継者づくりのために、若い人の活動参加は必要。昔は地域での炊き出し等で若い人から高齢者の方まで集まって、いい関係づくりができていた。今はそんな地域で集まることが無くなった。
- ・地域で支え合っていこうということで、ボランティア活動を4年実施している。ボランティアをしている人も、楽しくなければ続かない。80 歳以上の家に出向き、調子を伺ったり、何か手伝えることがないか尋ねて、お手伝いをさせてもらっている。
- ・毎週水曜にグランドゴルフをやっているが、グランドゴルフ等に来れない方をどう支えていくかが、問題だと感じている。人の好き嫌いもあると思う。
- ・一人暮らしの高齢者世帯は体調不良になると心配。地域の人たちで目配りや協力体制を構築されていければ・・・と思う。
- ・何をするにも一人ではできない。協力してくれる人が必ず必要。
- ・小さな班活動でもいいから、花見などの取組をしていくことで、関係性がつくれると思う。
- ・他の人に迷惑をかけなければいいという考えの人が多い。
- ・どんな活動でも、強制されるのは嫌だと思う。
- ・地域のつながりがないと、災害が起きた時が不安。防災管理について、民生委員に丸投げ。
- ・根本的には声かけが大切。声かけから共生社会をつくる。
- ・ウォーキング等、好きな活動からグループをつくっていくことが必要。

- ・地域の人が目を向けて、興味のある人同士をくっつけていくことができればと思う。
- ・地域共生社会をつくっていくためには、地域の人同士の目配り、声かけ、環境をつくる「姿勢」が大切。
- ・地域の人たちの心がひとつにならないといけないが、時間がかかる。
- ・地域の人同士が仲良く。日頃から隣近所での声かけが必要。

《 6 G 》

- ・15年前から、からいもの栽培を行い、「地域おこし」「資金集め」を行っている。5、6人で始めた活動。
- ・声かけを行うことで、家から出れなかった方が情報を知ることができ、集いに参加することができた。
- ・青年会という、男性のみの会を公民館で行っている。
- ・若い人の力を借りると、活気がでてる。
- ・地域の神社が注目されている。昔からの郷土芸能が集まる。若い人の手伝いをもらい、後継者につなげる。
- ・家庭に関する見守り（父子家庭への援助）を行っている。情報交換をして1歩踏み込んで、みんなで支え合うことが大事。
- ・地域ごとに閉鎖性があり、まとまりづらい。
- ・伝え方を工夫することが大切だと思う。
- ・みんな平等に情報を伝え、行事に参加してもらうようにしている。来ない方には、個人的に情報を伝えている。
- ・年賀状を必ず出す。頼ってもらうようなメッセージを添えて送っている。
- ・子どもがいなくて、育成会が無くなった。若い人の意見を聞ける場であった。
- ・様々な活動に来ない人には、その方の「得意なこと」を引き出すことが大切。できることで参加してもらえるようになる。その場にいなくても、関われるような仕組みをつくる。
- ・「忘れられていない」と感じてもらえるように、ちょっとおみやげを渡すのも効果的。
- ・大人数で行くと、あまり話してくれないことが多いので、一人で行くといい。

《 7 G 》

- ・今朝も月2回の小学校の見回り・声掛けをしてきた。
- ・電気が消えているかどうかで、見守りしている。
- ・自分たちで好きなことを決めて、ひろば事業を行っている。
- ・週に2〜3回、地域の高齢の方の見守りをしている。
- ・食生活改善推進員として活動しているが、なかなか認知度が低く、人数も少ない。
- ・「おしゃべりがしたい人」と「話し相手がいない人」を結んで、サロンを行っている。

- ・一人暮らしの高齢者については、民生委員、地域アドバイザー、地区役員に丸投げ。
- ・災害時の避難については、民生委員や地域消防団等、みんなで考えることが大切。
- ・買い物や病院等、近い方がいいので田舎を出ていく人が多い。考えていかないといけない。
- ・牧園は広いので、車移動が必須。
- ・集まるのは歩いて行ける場所がいいが、足が無い人を連れていくことは簡単。地域のみんなにも考えてもらいたい。

霧島圏域 会場の様子



霧島圏域議事録

《1G》

- ・私の地区では、月1回第3土曜日ふれあいサロン。参加者20名前後。固定化している。
- ・健康生きがいづくり、出てくる人が決まっている。
- ・高齢の方には字が読めない、電話できない方もいる。
- ・隣同士のお茶のみも無くなった為、「お茶のみをしよう」とサロンをはじめた。7年目。カラオケや健康体操などを行っている。
- ・サロンに様々な職種の方がいる。笑いヨガ、健康チェック、体操などを行っている。マイクロスプーで出かけることがあるが、拒否が多い。
- ・外出すると、遠いところは嫌がる。
- ・全体的にサロンに参加するのは女性が多い。
- ・地域が広い為、送り迎えが必要になる為、遠慮されて来ない方がいる。
- ・婦人会 OG 神社掃除を行っている。
- ・子どもが少なくなった。いなくなった。子ども会も無くなった。空き缶募金（各世帯に空き缶を配り募金してもらう）を子どもが集めていたが、今は各世帯が持ってくるようになった。趣旨が違うような気がする。

《2G》

- ・地域のひろば2年目。20名前後の参加。70代は少ない。高齢者の方は入院されたり、どう人数を増やすか？が課題。次のステップにどうしたらいいか。
- ・公民館長さんの入れ替わりで、活動が変わる。人が変われば、やりやすかったり、やりにくかったり・・・。
- ・買い物が大変。移動販売車が売りに来てもらえたら助かる。
- ・老人クラブに入られる方が少ない。1人では生きていけないので協力できればいいのと思う。80代が多い。
- ・外に出る機会をつくるには多くの人の参加が必要。
- ・移動販売車を走らせると、地元のお店が売れなくなる。
- ・後継者を育てないといけない。リーダーの高齢化が進んでいる。
- ・月1回笑いヨガ。別荘地の方が多く、ここで交流が行われている。
- ・役員をすると自分が磨かれるのに、役員をすると脱退する人が多い。
- ・踊りや大正琴などの集まりが活動につながらないだろうか。地域の集まりから老人会へつながる可能性もある。小さな単位がまとまればいいのになと思う。

《3G》

・昔は近所での交流があったが、今はなくなった。それがきっかけで若葉会を立ち上げた。今年で7年目。毎月、はじめに誕生会をする。プレゼントや歌を歌ってお祝いをする。頭の体操、笑いヨガ、運動会、忘年会などの活動を行っている。

・子どもは独立、夫は定年。自分もすることが無くなり、世間からおいて行かれるような気がした。生きがいを持ちたくて、老人会に入った。

・昨年12月に地域でグループをつくった。当初20名程だったが、今は50名程。神宮清掃や花植え等をおこなっている。

・そばを植える人、打ち人もいなくなった。

・サロン等への送迎で事故等があった場合が大変。親の活動を子どもが知っていてくれたら助かる。

・若い人で70代の男子会（語り合う会）を久しぶりに行った。会話は田んぼの話になる。近くにいる若い人、子どもたちにも参加してもらいたい。

・人間もいろいろ言う人がいるが、必要のない情報には耳を傾けなければいい。

・サロン等をつくるには、まずは仲間をつくる必要がある。2人、3人の少人数でもいい。

・自分たちで自主的に行うことが大切。役場等の力を借りずにつくる必要がある。

・送迎の事故についても考えすぎては、何もできない。極論を言う人もいる。

・人を引っ張り出すことは難しい。周りに理解してくれる人がいれば、自然と人は集まってくる。

・若い人たちにも理解してもらわないいけない。消防団員も欠員が多く、後継者がいない。

60～70歳の人たちに、どのようにして興味をもってもらうか、きっかけが必要。

隼人北圏域 会場の様子



隼人北圏域議事録

《1G》

- ・近隣の地区で合併ができないだろうか。区画がはっきりしない。
- ・昔みたいになれば。お茶のみができれば。
- ・自治会長の1年交代は厳しい。自治会を大きくできたらいい。
- ・地域の人には災害に慣れている人が多く、声かけにも「慣れているから大丈夫」って言われる人が多いので大変。
- ・自治会未加入の人に対して、災害時の対応に困る。
- ・一人の高齢者が移動するのは大変で、「家にいた方が安心」と言われる方もいる。
- ・施設の協力も災害時は必要。
- ・災害時、単独で動くのは無理なので、隣への協力が得られたら良いが、できませんと断られる人もいます。
- ・昔のように仲の良い関係づくりができればいい。
- ・地域ごとでつながりの違いが出ているのはなぜなのか？
- ・何もかも押し付けられるので、後継者のなり手がいない。
- ・顔の見える関係づくりが必要。関係づくりを大切にしている。未加入の人に対しても。

《3G》

- ・在宅福祉アドバイザーとして、月1回自宅訪問し、安否確認をしている。
- ・私の地区では老人クラブが無くなってしまったが、地域のひろばが始まった。
- ・不審者が出ているので、パトロールをしている。
- ・月2回、地区だけのゴミ拾いをしており、それ以外にも気づいたら集落のゴミ拾いに行っている。7名~18名がゴミ拾いを行っており、それ以外の方の協力もある。
- ・6年間、館長を行っているが、後継者がいない。
- ・元気老人を育てていきたい。自分も健康でありたい。
- ・畑仕事ができる、焼酎をのむ為に健康でないといけない。
- ・鹿屋体育大学の研究材料として、貯金体操を2か月間行った。効果があり、続けたいと言われ、今でも継続。
- ・3人で劇団をつくっている。劇団員を募集しており、鹿児島弁の勉強会も行っている。

《4G》

- ・おでかけしない日に、高齢者への声かけ・見守りを行う。
- ・先輩方と話すのは為になるので、楽しい。アパートの方は表札や番地も表示が無く、わからないので、今後が不安。

- ・長居をする人がいる、と言われたりするので、積極的に家には行かず、希望がある時だけ行く。電気の明かり等で安否確認・目配りをしている。
- ・悪徳商法（白アリ、健康食品）が多い。話を聞くなと言われるけど、女性の一人暮らしでは、男性が来たら怖い。一人暮らしだと悟られないように話をする。顔見知りの訪問が安心。
- ・病院に入院している方がいきいきとしている。同年代の方がいて、楽しいようだが、ショックだった。
- ・先進地の視察に行ってみたい。
- ・地域の伝統行事をつなぐための会だったが、方向性が変わってきた。
- ・体操・コーラス等を行い 20 人程度集まっている。
- ・みんなが来てくれる企画として、お弁当で引き付けているが、他の魅力も必要。
- ・私の地区は子ども会、女性連等まとまっている。

隼人南圏域 会場の様子



隼人南圏域（議事録）

《2G》

- ・地域のひろば申請していないが、今後する予定。
- ・長寿会を立ち上げた。（13名）

《3G》

- ・40年間外に出ていた。自治会の役員・民生委員等も行い、交通事故があったことから、通学路に立っている。サロンの立ち上げも行った。社協からゲームを借りてにぎやかに行っている。
- ・サロン（老人クラブ単独）を月1回行っている。65名。（会員100名程）
班ごとで出し物をする（弁当・飲み物）。理想はみんな入ってもらえたらありがたい。
みんなで取り組みたい。
- ・地域活動の中で、老人だけでやりすぎな面があり、「何でそこまでしないといけないのか？」という声もあった。それからNPO法人を立ち上げ、14年たつ。
- ・最初のメンバーが年をとると、後継者がいなくなる。
- ・いくら民生委員が声掛けをしても、のってこないと参加しないので、人とのつながりが大切だと感じる。挨拶等していけば、地域づくりもできていくのではないかと思う。
- ・一人暮らしの人も多い為、訪問員として、年間、何回か訪問もしているが、「そんなことをしているの？」と言われる人もおり、難しい面もある。
- ・地域活動は少人数ですればしやすい。なので、班分けをし、300㎡単位ぐらいを1つの単位としてまとめられたら良いと思う。
- ・いきいきサロンを年2回行っている。笑ったり、料理をしたり。でも、地域のまとまりがもうひとつとを感じる。グランドゴルフは15人くらいで毎日やっている。
- 一人暮らしの家をまわったり、民生委員の手が回らない方をまわっている。
- ・防犯パトロールを長寿会でしている。孤独死をゼロに民生委員や在宅福祉アドバイザーを中心にやっている。
- ・公民館組織に入っていない人は、今地域がどうなっているかわからない。
- ・声をかけられる・相談をうけられる人に。
- ・向こう三軒両どなり（湧水町で取り組んでいる）
- ・回覧板はただ置くだけになっている。昔は回覧板を持って行って、返事が無いと「病気なのか？」とか安否確認やつながりがあった。
- ・昔はほとんど、自治会に加入していたが、最近は自治会の加入率が低下している。入ってもらうように伝えても、「何かメリットはあるのか？」と言われてしまう。
- ・環境美化・防災・防犯・スポーツ・福祉といったまちづくり計画を回覧した。
- ・こどもたちから悩み相談などしたら、親との関係ができるのでは。

- ・声掛けが地域のベースになるのではないかと。集い等で、声掛けをしたりして地域の土台ができる。公民館行事も大事なのだが、防災に関する集い等を行うと良いと思う。
- ・地域のひろば、役割分担をして行っている。高齢の方もおり、足腰が悪くなった人をどのように外に出すか？2年目なので模索中。
- ・携帯電話があるので、回覧板なんていらないうい意見もある。回覧板を回してくれるとか、あの人が行くなら行かないとか・・・そんな話もある。
- ・月1回サロンがあったが、今は集まる機会が無くなった。

《4G》

- ・地域の中で何が大切なのか、考えながら活動している。閉じこもり予防や足腰の予防が大切。
- ・隣近所のトラブルや引きこもりの方が多い。
- ・一人暮らしの見守り、月1回の訪問を心がけている。
- ・帰り道に子どもたちに声掛けをするが、不審者扱いの時もある。学校との情報交換会があるが、なかなか意見が言えない。
- ・地区により、登下校の旗ふり等で交流・見守り実施中。
- ・事業所へボランティア中に利用者から意見を聞くが、スタッフにどの程度伝えたらいいのが困ることがある。利用者と事業所スタッフのパイプ役がほしい。
- ・安心・見守りカードを活用して、見守り活動をしている。
- ・老人クラブ（GG・季節行事・花植え）をしている。
- ・安心見守り活動（民生委員・長寿会・自治会長・人権啓発センター）を3班に分けて、2か月毎に見守り活動をしている。（7年）
- ・なかなか地域の民生委員・自治会・長寿会など、情報共有が図れていない地域が多い。
- ・8年前から10名程で、いきいき体操を始めた。週1日で行っている。話をしたい人が多い。
- ・デイのボランティア（3時のお茶の支援）に行っているが、慰問訪問は利用者さんへしてやってる感が強いような気がする。
- ・アドバイザーが少ない。地区でも増やすように働きかけている。
- ・32名老人会に加入しているが、徐々に加入者が減っている。
- ・介護度がある方にはサービスの見守りがあるが、元気な認知機能低下の方をどのように巻き込んでいくか困っている。
- ・今年のサロン計画で、与えられたものでは限界（やらされ感）があるので、隠れた技術（主体性）を引き出したい。
- ・長寿会への加入者が少ないので、若い人達にサポートしてほしいと声掛けで加入をすすめている。

《5G》

・私の地区でミニ文化祭を行っているが、いつも参加している人が固定されてきている。知っている人、協力してくれる人が少ない。販売の方には人が集まるが、舞台や発表の方へは人が集まらない。

・自治会での役員のなり手がいない。

・奉仕作業に積極的だった若い人たちが高齢化してきている。

・定例会を若い人たちが参加できるように、夜からに切り替えた。

・放送で呼びかけがあり、高齢者で困っている人が多いと感じ、自分もそうになっていくのかと思った。それなら、動ける今のうちに何かしたいと感じ、在宅福祉アドバイザーとして声掛け運動を行うようになった。

・グループホームへ毎週1時間ボランティアに行っている。「これでいいのだろうか？」と自問自答している。

・元気な高齢者はグランドゴルフ。

・子どもは歩いて登下校をしてくださいと学校から言われているが、若い人に「今、事件も多く危険じゃないか」と言われ、親が子どもを送り迎えしている。

「おじちゃんと一緒に学校へ行こう」と子供が言う。地域の人が子供たちと歩いて登校している。

・自治会に入る人が少ない。ゴミ出しも、車で自分で運ぶから良いという。

・サロンを開いてもその場所に行くことができない。

・長寿会に誘っても、私はまだそんな年じゃないと言われた。(60代)

・子ども会が地域の行事に参加することが少ない。子ども会の年間予定を教えてもらって、公民館の予定と合わせた。コミュニケーションが必要。

・多世代で地域のことを知ること、いいところだなと知ること、子供が大きくなってから地域の良さを感じてくれることも大切。

・子どもたちに企画や役割を担ってもらうのも良いのではないか。

・子どもから高齢者まで含めた地域場が必要。皆で、地域の情報を共有する。

・地域の伝統行事も、参加者が減ってきている。

《6G》

・ささいなことも民生委員に聞いてくる。

・独居の方の把握をしたいが、個人情報取り扱いの壁で、連絡先を聞き出すことが困難。

・向こう三軒両どなり。

・地区で災害について話し合いをする予定。

・地域の方がどんどん亡くなる。

・見回りをしている人が減っている。

- ・一人でまわっても、会ってくれない人がいたが、アドバイザーの方と一緒にまわったら会ってくれて、「また来なさい」と言ってくれて嬉しかった。
- ・私の自治会では、月1回親睦会をしている。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんのところへ民謡ボランティアに行っている。
- ・地域の老人の方々には元気でいてほしい。
- ・毎月サロンをしているが、どういふことをすればよいか悩む。
- ・来る人は毎月来るが、来ない人をどのように連れ出すか。
- ・他の地域のサロンを視察してヒントを得たい。
- ・若い世代の人も参加する方法を考えていきたい。
- ・サロンを2月に1回やっており、企画・運営は大変だが、やりがいがある。
- ・老人クラブがあるから助かっている。
- ・できる人ができることをする。1つでいいから、協力してもらうことが大切。
- ・いろいろな団体の方々・他の地区の活動を知りたい。
- ・自治会に入っていない人は、参加できない行事がある。
- ・地区によっては自治会に入っていない人も参加しているところもある。
- ・一人暮らしでこもっている方々の参加について悩んでいる。
- ・ひろば活動は現在は高齢者の方が多いので、今後若い人や子供の参加につなげていければと思う。

福山圏域 会場の様子



福山圏域議事録

《1G》

- ・鹿屋体育大学で推進しようとしている貯金体操を教えている。高齢者向けに行っているが、半年たつと、音楽にのったり効果が出ている。筋肉をつけることはとても大切。
- ・下場からもデマンド交通を利用して来ていただいている。
- ・下場は坂が多くてお年寄りには大変なところもある。
- ・私の公民館では、土曜サロンを開いている。自分たちで作って、お食事会をしている。1時間弱くらいだが、お互いの良い情報交換の場、笑いの場になっている。
- ・土曜サロンは、第2土曜日学校に行って、子どもが家で一人でご飯を食べるより、一緒に食べようということで始まった。そのうち、貯金運動なども組み合わせたい。
- ・行って楽しい雰囲気だとわかれば、来ていただける。特に若い人は、「まだ私は若いから」と、70代くらいの人たちは来ない。
- ・パークゴルフをやってる方が多く、民生委員でチームをつくり、見守り・声かけをしている。
- ・園芸クラブをつくった。じゃがいも等をつくって、お茶を飲んだりしている。5年くらい続いているが、2人くらいしか活動していない。高齢なので、体力が長く続かなかった。
- ・4世帯の地区がある。見はらしはいいが、道路も狭く、坂もきつい。1年中仕事をしているので、皆さんを集めて、何かするのは難しそう。
- ・小廻は東と西と分かれている。以前は鉄道記念公園でグランドゴルフをしていたが、ここ1年やっていない様子。リーダーの方が病気になったりすると、活動が自然消滅していく。
- ・公民館で、編み物教室をしている。お弁当を持って行ったり、話をしたりしてとても良い。
- ・声かけ活動をしている。「窓からでもいいよ。顔を見せてね。」と言っている。
- ・私の地区では多いときで、年間10世帯減っている。空き家が多く、男の人が1人残ると、食事が大変。月1回でも集まる場所があるといい。
- ・数日前は、畑で元気な姿を見ていたが、家で倒れていたなど聞くことがある。特に冬場は多く、お風呂は昼間に入るように声かけをしている。友人同士で、お風呂に入る時には、お互いに電話をしている人がおり、「何分後かに電話が無かったら、見に来て。」と伝え、お互いの安否確認を行っているらしく、いい方法だなと思った。
- ・小廻は西の方が若い。
- ・地域に子どもがいらないというのは残念。子どもの声を聞くと、ほっとする。
- ・旭タクシーが無料で見守り活動をしている。
- ・耳が遠いと、デイサービス等人の中に入ることを嫌がる。
- ・公民館に入っていない人が100世帯くらいある。新しい家ができたり、発展はしているが・・・。
- ・施設に入りながら、公民館に入る方もいる。

・地域のことを心配する声も上がっている。子どもたちに少しでも地域に残って欲しいと伝えている。

《2G》

- ・高齢化 80%代の地域はお互いを気遣い、生活を守る事で必死。
- ・全宅をまわれないので、75 歳以上の在宅を訪問している。
- ・散歩がてら、自分の地域をまわる。
- ・敬老会と運動会を 1 日で行っている。
- ・小さな集落では、住民が家族。
- ・地域によっては、若い人や子どもが集中。
- ・農振を外して、自分の土地に家づくりを。
- ・福山にいて自立した生活が今後できるのだろうか。福山が好きだけど、便利さを求めたら国分に行った方がいいのかと思う。
- ・趣味を持っておかないといけないと思うが、高齢になったら生活の中で、剪定や草むしり等、やるが増える。
- ・世帯数が多く、人口 1000 人を超える地域もあるが、高齢者が安心して生活ができ、生きがい希望をもてる必要がある。
- ・公民館の使命は安心して生活できる地域づくりだ。
- ・以前は各地区にリーダーがいたのだが、そのリーダーは 80 代になり、デイサービスに。限度を超えてきている。
- ・農業、畜産は認知症予防になり、高齢になっても何かをしないといけないと思うので元気。
- ・足が無いのがネック。周りも高齢化してきており、なかなか頼めない。
- ・行政に言っても無理がある。
- ・今あるものを活用、残しておく。
- ・SNS をうまく活用し、ラインで孫と楽しい会話もしている。
- ・自治会に加入しない方もいる。その多くは若い人で、役員を引き受けたくない、活動したくない、地域にしばらくたたくとの意見がある。
- ・地域の活動に参加しない場合は罰金を取るのだが、このお金は花見など皆に還元するので、皆嫌がらずに払ってくれる。協力費となっている。
- ・ゴミ出しができるのが、自治会入会のキーポイント。メリット。

《3G》

- ・7 年、登校時の旗振りをしている。ありがとうというお礼の手紙や、保護者からのお礼の言葉などをいただいた。低学年と一緒に横断歩道を渡ってあげる。
- ・学校評議員をしていた頃は、子ども達の名前も覚え、子どもと顔見知りになった。

- ・一人暮らし高齢者宅を訪問し、毎日行くところもありやりがいがある仕事だと感じる。
- ・運動推進員としてサロンに参加している。
- ・子ども会、読み聞かせボランティア、運推、いきいきサロン、ひろば事業に取り組んでいるが、なかなか進まない。声かけをして、役割分担をしている。
- ・集まった高齢者の方は、子どもと会うと、とても元気になる。
- ・今度、サロンで小学校へ出かける。学校へ相談に行くと、喜んで受け入れてくれた。事前に日程が合えば授業に取り込むことも可能ということだった。
- ・高齢者の方に困ったことはないかと聞くと、特に困っていないと言う。(困りごとはありません)
- ・一人暮らしの方は近くに子どもがいるので、子どもから支援を受けている。
- ・敬老会への参加者が少ない。1人暮らしの方と情報交換する場がない。回覧板では内容が伝わらないので、福地では細かく説明し、何度も放送をする。
- ・どうしたら集まるか？会話の中で、その人の好きなこと、できることを引き出せるといい。

《4G》

- ・私の地区は30年くらい前から若い人が来て、地元の方が少ない。伝統行事、公民館活動がなく、したくない人が多い。勧めても、公民館を抜けると言われる。
- ・地域運動会、コスモス祭りなどをしている。
- ・花はすごい力をもっている。人間を元気にしてくれ、みんなが集まる場所になる。
- ・カラオケ活動を続けて5年目になる。続けることは大変だが、自治会長が協力してくれる。1回行けば誘い合える。認知症の方も参加している。
- ・カラオケ、花づくり、好きなことをすれば仲間ができる。
- ・相方を探すことが必要。1人が2人になると動ける。
- ・「花づくり」「人づくり」「仲間づくり」みんな自由。強制はしない。
- ・前向きな人を育てないといけない。地域には必要不可欠。やってみればできる、という気持ちを育てないといけない。
- ・長寿会が無くなりそうだった。人生一生勉強。とにかくやってみることが大事。
- ・リーダー育成が大きな目標。
- ・60歳で線を引いたら楽になった。
- ・お互いの地域でカラオケでも交流ができないか？協力し合っているところを学び合いたい。
- ・牧之原小学校と七夕祭り。子ども達に元気をもらえる。
- ・そこに行けば、誰かと会える。そんな場所が欲しい。
- ・コスモス園にかかしを作ってみたらどうか？車停めて、写真撮る人が出てきたり、かかしをみんなでワイワイ作ったり。
- ・自分たちでしていかなないと、国は何もしてくれない。

「霧島発 地域の絆」情報交換会 アンケート集計結果

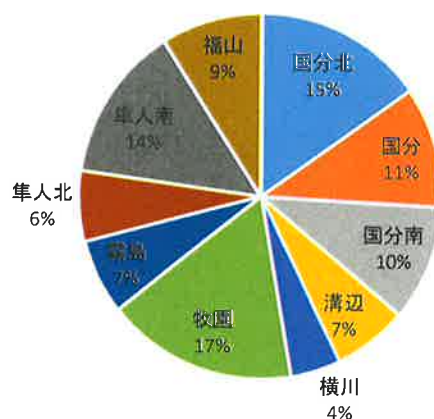
地域住民参加人数	224
専門職参加人数	47
アンケート回収数	216
アンケート回収率	96.4%

※アンケート回収は、地域住民のみ

情報交換会 地域住民参加人数

国分北	34
国分	24
国分南	23
溝辺	15
横川	10
牧園	38
霧島	15
隼人北	14
隼人南	31
福山	20

情報交換会 地域住民参加人数



情報交換会 専門職参加人数

国分北	6
国分	4
国分南	3
溝辺	4
横川	5
牧園	5
霧島	3
隼人北	10
隼人南	4
福山	3

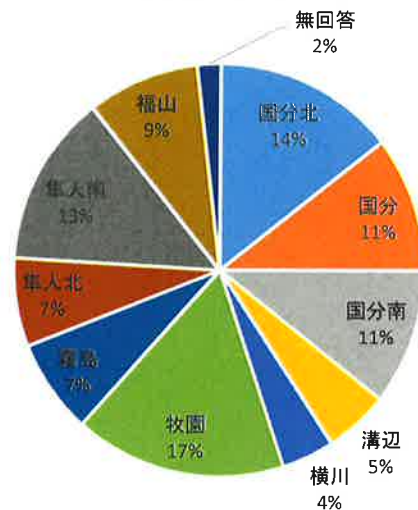
情報交換会 専門職参加人数



①お住まい

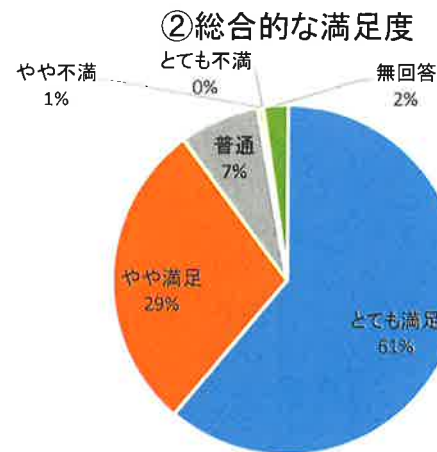
国分北	31
国分	23
国分南	23
溝辺	11
横川	9
牧園	36
霧島	16
隼人北	15
隼人南	29
福山	19
無回答	4

①お住まい



②総合的な満足度

とても満足	132
やや満足	62
普通	16
やや不満	1
とても不満	0
無回答	5



③満足度の理由

【残念だった点】

- ①「地域の絆づくり」の話はほとんどなく、自治会未加入の話が多かった。
- ②自分たちのやり方を話したが、これでいいのかと思うところもあり、それを気付かせる何かがあったら、尚よかった。次回の課題と思う。
- ③こういった会に参加される方は、皆共通の問題点で悩んでいることがわかるが、ここに参加されない方々に対して、どう発信して頂くか、その術を知りたくて参加しましたが・・・
- ④自分の思っていることは発言できたが、これだと思う回答が出なかった。
- ⑤討論するには時間が短かったかな。解決策がなかなか見つからない。
- ⑥参加者が少ないので、各団体や自治会長等の参加を増やしたら、現状が見えるのでは？
- ⑦できれば圏域内4つの公民館全部からの出席がほしかった。
- ⑧もっと参加者が多ければなと思った。
- ⑨災害の話などすぐに役立つ話にもなったが、結論はなかなか難しいですね。今後の会議の盛り上がりにつなげられると思うことだった。
- ⑩生活保護や50歳～60歳代の独居男性等の課題についても話題に挙がったが、もっと深くまで話がしたかった。

【満足だった点】

- ①いろいろな立場からの意見が聞けた。お互いに刺激を受けた。まわりとのコミュニケーションづくりが勉強になった。
- ②他の自治会、公民館の取組や苦勞を知ることができた。民生委員さんのご活躍やご苦勞を知ることができた。
- ③顔を知らない人と話をする事ができた。仲良くなれた。いろいろな役職の人と交流が持てた。次に会うのが楽しみ。
- ④同じ地域の人と同じ意見で良かった。気楽に話げできた。
- ⑤地域の絆の重要性が再認識できた。今後の役割を考えさせられた。
- ⑥たくさんの方々が地域のことを考えていることに感動した。励みになった。自分も頑張ろうと思った。
- ⑦情報交換の中で共通課題が確認できた。同じ問題を抱えている地域が多いと感じた。
- ⑧住みよいまちづくり、安心安全なまちづくりに協力していきたい。若い層にも関心を持ってもらえるような企画を考えたい。
- ⑨自分の地区や活動でも活かせることがあった。自分たちはまだまだやれると気付かされた。
- ⑩自分の意見が言えただけでなく、気になっていたことも情報をもらうことができた。
- ⑪知らないところでさまざまな取組があることを知り、情報交換の必要性を感じた。
- ⑫久しぶりに笑った。笑いをとることの大切さが勉強になった。たいへん有意義な時間だった。
- ⑬自分の地域ももう少しなんとかしたい。人の役に立ち、人に喜んでもらいたい。
- ⑭他の会合では建前になりがちのところ、本音の部分が聞けた。ざっくばらんな話げできた。
- ⑮公民館や民生委員等の役割が理解できた。
- ⑯話し合う時間が充分とってあって良かった。
- ⑰たくさんの素晴らしいリーダーがいることを知り、敬服した。
- ⑱それぞれの自治会や公民館での取組も大切だし、自治会や公民館が連携することも大切だと感じた。
- ⑲資料内容がわかりやすい。見やすかった。
- ⑳グループ分けや進め方がよく、スムーズに話し合いが進んだ。
- ㉑おいしいお茶をありがとうございました。
- ㉒自己紹介の積み木方式がとても楽しかった。チームワークができた。私も使わせていただきます。
- ㉓細かいところに気配りがあって良かった。「懐紙」ありがとうございました。スタッフのみなさまお疲れ様でした。
- ㉔とても楽しい会合だった。スタッフのみなさんも参加者のみなさんも、今後も元気で頑張ってください。

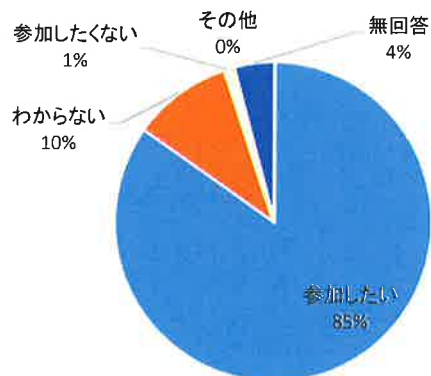
④地域づくりの催しへの参加

参加したい	183
わからない	22
参加したくない	1
その他	1
無回答	9

※その他意見

時間がある場合は参加してもいいかなあ

④地域づくりの催しへの参加



⑧ご意見・ご要望

【今後の開催頻度について】

- ①1回でも多く開催してほしい。回数が多いほど良い。
- ②毎月開催してほしい。
- ③2～3ヶ月に1回程度。
- ④4ヶ月に1度。
- ⑤半年に1度。

【開催日時等の要望について】

- ①時間的にはちょうど良い。
- ②時間が短かった。半日くらい必要かも・・・
- ③今回のように9時から12時くらいが都合がよい。
- ④3週目くらいが都合がよい。
- ⑤第1、第2金曜日は都合が悪い。
- ⑥第2水曜日以外で。水曜日の昼間以外で。
- ⑦月・金以外で開催してほしい。
- ⑧今回のように平日が良い。
- ⑨午後からだと都合がよい。
- ⑩午前中が都合がよい。

【内容について】

- ①次回は事例発表を聞きたい。
- ②市内で活発な地域の視察に行きたい。
- ③他圏域の状況を知りたい。
- ④テーマを絞ってグループワーク。
- ⑤食改や運推、ボランティア等が地域で活躍できるように「どんなことができるか」といった内容もほしい。
- ⑥時間の都合もあると思うが、まとめを少し入れたらよいと思う。
- ⑦若い人たちとの交流の場がほしい。育成会や子ども会の取組を聞きたい。

【その他】

- ①行政の関係課も同席出来たらよいと思う。
- ②在宅福祉アドバイザーが少ないので募集をかけてほしい。
- ③各地域でトップに立つ人に参加してほしい会合だった。
- ④今回のミーティングで出た意見を行政に活かしてもらいたい。
- ⑤社協には、自治会・公民館活動に出向いての支援をお願いしたい。
- ⑥こういった会合の案内を何回か出してもらいたい。
- ⑦企画側の熱意が伝わってくる。準備の内容を見ればよくわかる。